

佐賀・長崎地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

## ～諫早大水害から65年～ 「防災・減災教育を考える集い」

子どものいのちを守り、未来を変えるために 今、私たちができること。

- 〔主催〕 国立諫早青少年自然の家  
〔共催〕 諫早市、諫早市教育委員会  
〔協力〕 いとう 良一（イラストレーター）※原画展への原画提供  
〔期 日〕 令和4年10月7日（金）～12日（水）  
① シンポジウム 10月7日（金） 18：00～20：00  
② 絵本原画展 10月7日（金）～12日（水）  
③ 絵本読み聞かせ 10月8日（土） 14：00～15：00  
〔活動場所〕 ① 諫早市中央公民館  
②、③ 諫早図書館  
〔参加者〕 ① 93人  
② 219人  
③ 10人  
〔講師〕 ① 古賀 文朗（諫早市自治会連合会 会長）  
鈴木 みゆき（國學院大學人間開発学部子ども支援学科 教授）  
加藤 篤（特定非営利活動法人日本トイレ研究所 代表理事）  
福井 照（チームレジリエンス Japan 代表）  
松山 厚子（諫早市総務部危機管理課 参事補）  
③ 図書館ボランティア「としよかん広場」  
〔担当職員〕 寺中 拓也、上戸 正仁

### 1) 趣 旨

長崎県では、近年大規模災害は発生していないものの、過去には、1991年雲仙普賢岳火砕流災害、1982年長崎大水害、1957年諫早大水害などの大規模災害による被害も受けており、今年も、長崎大水害から40年、諫早大水害から65年の節目となっている。

また、西日本豪雨など近年は記録的な豪雨が土砂災害や河川の氾濫などの災害を誘発させている線状降水帯は長崎でも発生しており、自分の身の回りにも起きるかもしれないという意識を持ち、備えをすることが求められている。

そこで、昨年度、諫早市と連携協定を結んだことを契機とし、本事業では、想定外の自然災害に対して、子どもの命、自らの命を守る防災・減災について考えるきっかけを提供することを目的に、市民を対象に自治体職員、地域住民、専門家等多角的な視点を通して防災・減災教育を考えるシンポジウムや親子や子どもを対象とした防災絵本の原画展を開催する。

## 2) プログラム

### ① シンポジウム 10月7日(金) 18:00~20:00

18:00 開会

18:05 講演「諫早大水害の経験から、今伝えたいこと」

古賀 文朗 (諫早市自治会連合会 会長)

18:45 トークセッション

【コーディネーター】

鈴木 みゆき (國學院大學人間開発学部子ども支援学科 教授)

【登壇者】

加藤 篤 (特定非営利活動法人日本トイレ研究所 代表理事)

古賀 文朗 (諫早市自治会連合会 会長)

福井 照 (チームレジリエンス Japan 代表)

松山 厚子 (諫早市総務部危機管理課 参事補)

20:00 終了

② 絵本原画展 10月7日(金)~12日(水) 10:00~19:00 (図書館開館時間)

③ 絵本読み聞かせ 10月8日(土) 14:00~15:00 図書館ボランティア「としょかん広場」

## 3) 事業展開

### ① シンポジウム



受付の様子



会場の様子

### ② 絵本原画展



展示の様子

### ③ 絵本読み聞かせ



読み聞かせの様子

#### 4) 評価

##### (1) アンケート結果（事業全体に対する満足度） ※シンポジウムのみ

満足	やや満足	やや不満	不満
74.6%	25.4%	0%	0%

##### (2) 参加者の声

- ・ 様々な分野の人から、普段聞かないような話を聞けて、非常に有益でした。また、本日のシンポジウムに合わせて、図書館で絵本の展示など、連携していることが素晴らしいと感じました。
- ・ とても今後に活きるお話を聞かせて頂きました。このお話を多くの市民に繋げていけるように色々と「連携」を思案していきたいです。
- ・ 一人暮らしのお年寄りの中には社会的に孤立している人も多いはずで、災害時にそういった人の逃げ遅れをなくすために、自治会や地元の消防団が連携できる体制を作っていくべきだと思いました。特に、消防団の人間として、災害時に消防団員が声掛けに行けるという仕組みをほしいし、地域づくりをするべきだと思います。

#### 5) 成果と課題

##### (1) 成果

- ・ 諫早市及び諫早市教育委員会との共催により、同危機管理課及び同市立図書館の協力を得て、講師の選定や会場準備を行う等、連携した取組を行うことができた。
- ・ シンポジウムには行政職員、教員、地域の消防団員、NPO 団体職員等、多様な方に参加いただくことができた。アンケートからは、それぞれが連携、協同して地域の防災力を高めていくために何ができるかを考える一助となったことが伺えた。

##### (2) 課題

- ・ 今回の取組が一過性のものに終わらないよう、諫早市危機管理課との連携を強化、継続し、地域と一体となった防災減災教育の推進を進めていく。
- ・ 防災、減災に興味、関心がない地域の方へ、どのように普及啓発していくかを検討していく必要がある。